

# CallManager 4.x : CPU の高使用率のトラブルシューティング

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[InsertCDR.exe のスパイク](#)

[解決策](#)

[Sql.exe のスパイク](#)

[解決策](#)

[メディア ストリーミング アプリケーションが原因で CPU 使用率が高い](#)

[解決策](#)

[Aupair.exe](#)

[解決策](#)

[RISDC.exe のスパイク](#)

[解決策](#)

[Tcdsrv.exe](#)

[関連情報](#)

## 概要

Cisco CallManager サービスは、動作するために十分な CPU またはメモリなどのリソースを持たないためにクラッシュする可能性があります。通常、この間のサーバの CPU 使用率は 100 パーセントです。このドキュメントでは、CPU の高使用率によって生じる問題とその解決策について説明します。

注: Cisco CallManager サーバの CPU スパイクは、同時に実行されているサービス/アプリケーション次第では正常である可能性があります。ただし、CPU スパイクが続くのは良いことではなく、CallManager サービスが停止したり、ダイヤル トーンの遅延などの問題が発生したりする可能性があります。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

## 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco CallManager 3.x および 4.x に基づくものです。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## InsertCDR.exe のスパイク

InsertCDR.exe アプリケーションがスパイクを起こした結果、Cisco CallManager サーバでの CPU 使用率が高くなります。

## 解決策

この問題は、Cisco Call Detail Record ( CDR ) 挿入サービスが有効になり、[CDR Enabled] フラグが [True] に設定されない場合に発生します。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. Cisco CallManager Administration ページへ移動します。
2. [Service Parameter] を選択し、[Cisco CallManager Service] を選択します。
3. [CDR Enabled] フラグの値を [True] に変更し、Cisco CallManager サービスを再起動します。

## Sql.exe のスパイク

sql.exe アプリケーションは多くの CPU を消費するので、Cisco CallManager Publisher サーバのパフォーマンスを低下させます。

## 解決策

この問題は、Cisco CallManager Publisher サーバにインストールされている、いずれかのサードパーティ製課金アプリケーションによって引き起こされる可能性があります。この問題を解決するには、アプリケーションを停止し、Cisco CallManager サーバを再起動します。

## メディア ストリーミング アプリケーションが原因で CPU 使用率が高い

保留音 ( MOH ) をループする WAV ファイルの再生時間が短い場合にこの問題が発生する可能性があります。短い WAV ファイルを再生する際、必要な一定のループを実行するのに CPU が使用されます。

## 解決策

この問題を解決するには、ループの回数が比較的少なくなるように、再生時間がより長い WAV ファイルを使用してください。これにより、CPU 使用率が低くなります。

## Aupair.exe

Cisco CallManager 4.x クラスタでは、aupair.exe の CPU 使用率が Cisco CallManager subscriber サーバで高くなります。Cisco Database Layer Monitor service ( aupair.exe ) は、データベース層や CDR に関してモニタします。データベース層は、一連のダイナミックリンクライブラリ ( DLL ) から構成されます。DLL は、データを追加、取得、変更するためにデータベースにアクセスする必要があるアプリケーションのための共通のアクセスポイントとして機能します。

## 解決策

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. パブリッシャ上の CDR 挿入サービスを再起動してください。
2. データベース層モニタ サービスと RIS Collector サービスをパブリッシャとサブスクライバの両方で再起動します。
3. DBLHelper を使用し、Cisco CallManager クラスタの切断された SQL サブスクリプションを再構築します。DBLHelper の詳細については、「[Cisco CallManager クラスタの切断された SQL サブスクリプションの DBLHelper を使用した再構築](#)」を参照してください。

## RISDC.exe のスパイク

場合によっては、Realtime Information Server Data Collection ( RISDC ) などのパフォーマンス監視サービスが CPU スパイクを引き起こす可能性があります。

## 解決策

RISDC サービスを再起動してこの問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. [Cisco CallManager Administration] ページに移動し、[Application] > [Cisco CallManager Serviceability] の順に選択します。
2. [Tools] > [Control Center] に移動し、サーバのリストから適切な CallManager サーバを選択します。
3. [Cisco RIS Data Collector] サービスを選択し、[Restart] をクリックします。

## Tcdsrv.exe

ユーザが、電話に応答する、転送する、保留にする、さらには IP 電話でダイヤルトーンを開始すると、Cisco CallManager の応答が非常に遅くなることがあります。この現象が発生すると、テレフォニーコールのディスパッチを担当する toddsrv.exe サービスの CPU 使用率が高くなります。

toddsrv.exe は、テレフォニーコールのディスパッチャに使用され、アテンダント コンソールで

使用する目的で作成されています。 CallManager がアテンダント コンソールを使用しない場合、 [the CiscoCallManager Serviceability] ページの ControlCenter からテレフォニーコールのディスプレイ パッチング サービスを停止します。

## 関連情報

- [Cisco CallManager サービスのクラッシュ](#)
- [Cisco CallManager クラッシュのトラブルシューティング](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)